

誰も納得しない福島原発の汚染水海洋放出

トリチウムは水素と化学的性質が同じ。福島原発の汚染水から除去できない。政府はそのトリチウム含有汚染水を海に放出開始する。

安倍政権と東電は「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束していた。

IAEAの説明を漁連は「理解」はしたが納得していない。「放出に反対」で「理解した」訳では無い。

責任を取る??

岸田首相は「漁業者が生業を継続できるような必要な対策を今後数十年の長期に亘るうとも全責任をもって対応する」と云う。

しかし、いざ「生業に影響した」と云われたら「それは処理水の放出と関係ない」と逃げるだろう。

数十年先、あの世か

らどうやって責任を取るのか?

岸田首相は周辺国も「一定の理解を得た」と云う。それなら岸田首相と東電社長が周辺国を回り「放出に同意」を取り付ければ良い。

他の道も探るべき

一方、米国ニューヨーク州は原発汚染水のハドソン川への放出の禁止を法制化。

トリチウムは八十年経てば百分の一に減る。

海への放出にこだわらず十分減るまで待つと云う選択肢もある筈だ。

問題の無い排水なら皆の目の前でタンカーに積み、捨てれば良い。海底のトンネルから排出とはこっそり他の汚染水も捨てるのではないかと疑うのは筆者だけだろうか?

あなたは どう思われますか?

へちま

神奈川県横浜市南区

二〇二三年八月



今年も緑のカーテンにへちまとゴーヤを植えた。

ゴーヤは七月中は勢いが良かったが、暑すぎたのか、その後、花が余りつかない。

へちまは八月に入つて勢いを増し、蔓を伸ばしあちこちに花を咲かせるようになった。

これは二階のベランダの手摺りに顔を出した雄花、実、雌花。

鹿児島や沖縄ではへちまを食用にするし、近所のベトナム人によるとベトナムでも食用にするそうだ。

沖縄方言ではナーベラーと呼ぶが実の繊維が固くなったへちまたわしを鍋洗いに用いた事に由来すると云う。

本来の名前は「系瓜」それがなまって「とうり」となり、「と」がいろは歌で「へ」と「ち」の間にあるから「へちま」となったそうだ。

